

# かけがわの森から

掛川市森林組合通信



2022年新年号 Vol.58

お箸の国は、  
食卓も森林も美しく。  
お箸を使う国の中で、お箸だけで食事する作法が  
確立されているのは、日本だけといわれています。  
和食文化の真ん中にあるお箸を、掛川産の杉材でつくりました。  
日々の大切な食の場面に、森林への想いを馳せつつ  
使っていただくことが、健やかで美しい森をつくります。

寅年 謹迎  
旧年中は格別のご高配を賜り、  
ありがとうございました。  
皆さまのご健康とご多幸を、  
心よりお祈り申し上げます。



島田市大代のジャンボ干支



今後は足元の事業課題についてもしっかりと取り組みを進めます。策定した「かけもり5カ年計画」に基づいて組織を充実させながら、組合員と地域の森林を守り育て、持続可能な林業の実現のため意欲的な課題にも果敢にチャレンジしたいと思います。そして寅年に相応しく草木が伸び始めるかのごとく Team 掛川市森林組合もチーム力を高め伸ばしてまいります。今後とも皆様のご指導・ご協力を賜りますことをお願いし、年頭の挨拶とさせていただきます。

「かけもり5カ年計画」の策定を目指して  
新年明けましておめでとうございます。旧年中は組合員をはじめ、関係者の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。  
本年は寅年です。「寅」という文字には「まっすぐに伸ばす、引っ張る」という意味があり、寅年は春が来て根や茎が生じて成長する時期、草木が伸び始める状態だとされています。  
当組合におきましては、この先20年後の森林組合のあるべき姿を見据えた経営ビジョンを「人々に愛され、受け継がれる森林づくり」(私たちは、地域の人々と森林との接点をふやし、森林を愛する心を育みながら、掛川の森林を次世代に受け継いでいきます)、と定め、その達成のための戦略三本柱 ①テクノロジーを活かした次世代型林業経営、②安定した森林経営のための組織強化、③人々に愛される森林組合ブランドの育成をたてました。そして昨年末、この三本柱を基に20年後のあるべき姿にむけ、これからの直近5年間に4課(総務経理課、経営計画課、施業整備課、流通販売課)がそれぞれに取組むべきことを話し合うワークショップを開催しました。それには当組合が単独で取り組み、それを継続・拡充していくことから、地域・企業・NPOなどとの連携を推進していく意欲的な取組みも含まれています。

## 榛村航一 組合長の 元気もりもり(森・森)通信 26

「かけもり5カ年計画」の策定を目指して

### 「これいい!」購買担当「リエさん」のオススメGOODS!!

原木いらず  
お世話も簡単♪

●キノコ栽培キット…… ¥1,430 (税込)

(1月末まで予約受付、2月上旬お渡し予定)

おうちの中でエリンギやなめこを育ててみませんか



お子さんと一緒に  
食育にもおすすめ

毎年  
好評!



●しいたけ種駒 にく丸

(1,000ヶ入) ¥3,740 (税込)・(500ヶ入) ¥2,040 (税込)

なめこやひらたけなど他の品種も取り扱っております。(3月10日まで要予約)

### 購買よりお知らせ

- 春植え山行苗木(スギ・ヒノキ・コナラ・クヌギ)の注文を受付しております。
- 配布時期は3月中旬を予定しております。購入希望の方はお早目にご連絡ください。



KAKEGAWA  
Forest Owner's Cooperative

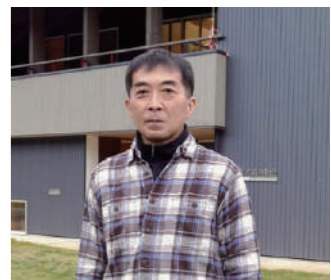
発行元

## 掛川市森林組合

〒436-0335 静岡県掛川市大和田320-1

TEL.0537-25-2111 FAX.0537-25-2113

<https://www.kakemori.jp>



かけ森インタビュー 8 林業は、人と人とのつながりが、実はとても大切です。

昨年より副組合長を務める中山高志さんは、掛川市と浜松市佐久間で林業を営む専業林家。静岡県林業指導者という林業のエキスパートでありながら、森林インストラクターの資格を持ち、さらにはツリークライミングの専門家でもあります。今回は、そのマルチな活躍ぶりを続ける中山副組合長にお話を伺いました。

今日は中山さんが林業界に入るまで、そして今後について伺っていただけと思っています。

中山：元をたどれば中山家のルーツは和歌山県です。様々な経緯で静岡県内で林業を営むようになりました。現在は掛川25ha、佐久間240haの所有林が中山林業の基盤です。主なフィールドは佐久間の山林で、幅広い林齢のスギヒノキの森林を施業し、多種多様な木材を生産しています。

小さいころから、林業を継ぐ気持ちがあったのですか？  
中山：いえ、僕は次男だったこともあり、自由にやらせてもらってました。学校卒業後は好きな分野の音楽関係の販売部門に6年間勤めました。ただ、好きで進んだ仕事でしたが、販売の仕事となれば売り上げ

ノルマを考えなければならず、悩むことが増えました。ちょうどその頃父親が70歳を迎え、森林・林業の道に導かれました。子どものころから自然が大好きでしたから、飛び込んでみよう、と思いました。  
26〜7歳のころですね。当時は5〜6人の社員の中で、佐久間町に泊まり込みで働いていたそうなんです。

そこから30数年林業一筋で、やってこられたわけですが、いかがでしたか？  
中山：林業界に入った当時は、仲間と呼べる人は多くありませんでした。勉強を兼ねて参加したグリーンワーカーの研修でいろんなことを教わり、先輩や仲間、林業研究会とのつながりができて世界が広がりました。その後は森林インストラクターやツリークライミングを学び、それがまた新たな出会いやニーズの発見、仕事につながっていきました。振り返ると、人との出会いに恵ま

最後に中山さんの今後のビジョンについて教えてください。  
中山：これからの林業は、男や年齢に関係なくそれぞれの得意分野や専門性を生かすかわり方が増えるのではないかと思います。林業に携わりたい人を広く受け入れて、その居場所になれるような林業の形を目指します。

掛川市森林組合 代表理事 副組合長  
中山林業株式会社 代表取締役  
なかやま たかし  
中山 高志さん  
聞き手：今橋（経営計画課長）

自然の中にいられる幸せがある一方で、人と合わない時間が増えすぎて販売時代とのギャップが大きかったです。その頃は休みには販売のアルバイトや音楽イベントの手伝いなんかをやっていました（笑）

中山：当時は佐久間の番頭さんのところに住み込みで働き林業について教わりました。自然の中にいられる幸せがある一方で、人と合わない時間が増えすぎて販売時代とのギャップが大きかったです。その頃は休みには販売のアルバイトや音楽イベントの手伝いなんかをやっていました（笑）

中山：これは佐久間の番頭さんのところに住み込みで働き林業について教わりました。自然の中にいられる幸せがある一方で、人と合わない時間が増えすぎて販売時代とのギャップが大きかったです。その頃は休みには販売のアルバイトや音楽イベントの手伝いなんかをやっていました（笑）



コラム「美林掛川へ」 掛川産スギ材の 割り箸を製作、寄贈へ！

割り箸にどんなイメージをお持ちですか？  
職場の仲間に聞きました！

「コンビニではタダでもらえる！」

確かにそうですね。

「割るのが下手で斜めになっちゃう！」

そういう時ありますね。

でも実際は上手下手でなく木の問題。

「斜めに割れると使いにくい！」

ほんとですね、なんとも食べにくい。

「木材の無駄遣い？」

そう言われてマイ箸ブームがありましたねえ！

20年くらい前でしょうか。

「国産の割り箸は高級感がある！」

確かに！製材所の端材を使っているみたいです。

「昔、彼との運命を箸の割れ方で占ったものよ♡」

あらーそういう時もあったのね♡  
そんなやり取り後にいろいろ調べてみると…  
日本で使われる割り箸の98%は中国産。木材はアスペン（ポプラの仲間）がほとんど。実は割り箸にはいろいろな形状、スタイルがある。利休、天削、元禄、小判…日本の割り箸文化は古く、江戸時代からのものと言われている。日本の文化です。



掛川のスギ材で！

今回「掛川産スギ材の割り箸」を製作しています。市内の製材所さんの端材を活用し、天竜の福祉施設「せきれい」さんに加工していただいています。形状は、上下が少しずぼんだ利休箸。パシッと本気に気持ちよく割れます！赤身部分を含んでいて色合いが渋く、ほんのりスギのいい香りがあります。とくに赤身はやわらかな香り。洗って何回か使える、ちょうど高級タイプです。中には1膳のお箸に赤白が混じった、いわゆる「源平箸」も。

農林中央金庫さんの助成事業を活用し、5万膳を商工会議所さんに寄贈予定！

農林中央金庫さんの助成事業を活用させていただき、製作した割り箸を掛川商工会議所さんを通じて市内の飲食店さん等に寄贈することになりました。寄贈数は5万膳です。立春の頃から新緑の頃まで、市内のどこかで皆様にお目にかかる機会を楽しみにしております。



トピックス

組合PR動画ついに公開 『チームワーク&ハートワーク』

動画では掛川の美しい山林の風景、まるでその場にいるかのような迫力満点の伐倒シーンを、ドローンを利用し、新たな角度から空撮しています。また、職員がインタビュー形式で語る『仕事について』『想いについて』。これを見れば、掛川森組の全てが分かる！ぜひご覧ください。  
【再生時間21分37秒】



https://youtu.be/925R9bZ04Y0

お知らせ 新入職員紹介

施業整備課

大久保 拓彌

今年の7月から掛川市森林組合の技術員として働いています。自然の中で仕事をしながら、森林の今後の幅広い可能性の開拓に携わりたいという想いに加え、妻の後押しもあって、40歳にして自動車関係の仕事から転職を決意しました。

草刈機やチェーンソーは日頃使うことはあるものの、仕事となると素人同然で、正直、最初のころは不安でいっぱいでした。しかし先輩方には安全第一で手取り足取り丁寧に教えていただいているので、自然の豊かさを感じながら日々やりがいをもって仕事できています。毎日楽しみにしているのは、森の中で食べる昼飯弁当と、仕事の後の夜の一杯です！

私には子供が3人います。子供たちの将来、自然の魅力を感じ、よりよい環境になることを願いながら、今自分ができることに一生懸命励み、組合の発展に尽力していきたいと思っています。

